

Sport・小郡

第11号

2024年7月発行



歴史ある

『大原合戦記念剣道大会』

「大原合戦」は南北朝時代の一三五九年、この小郡で起こった九州最大の戦いです。征西將軍懐良親王を総大将とした4万の南朝勢は岩田・福童に、少弐頼尚率いる6万の大軍北朝勢は小郡・松崎・横隈に陣を構え、非常に激しい戦いを繰り広げました。南朝勢が勝利しましたが、両軍合わせて死傷者2万5千人にも及んだと伝えられています。

この戦没者の慰霊のため、大原合戦600年記念祭（一九五九年）以降行われているのが小郡市剣道連盟主催の『大原合戦記念剣道大会』です。昨年、新型コロナウイルスでの中止を経て4年ぶりに開催されました。開会式では厳粛な雰囲気の中にも、市内外から参加した小中学生68チーム、約300名の子どもたちは真剣な面持ちで試合に臨んでいました。会場には保護者の姿も多く見られ、久しぶりの大会は盛況のうちに幕を閉じました。

今年の大会は9月8日に予定されています。

大会の由来を詳しくご覧いただけます

